

博物館だより



No.105

平成27年4月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1118
(みやこ町役場豊津支所内仮事務所)
TEL 0930-33-4666

博物館友の会

会員募集!

みやこ町歴史民俗博物館友の会は「故郷を楽しく学ぶ」をモットーに、講演会やバスハイイク・歴史たんけんウォークなどさまざまなイベントや学習会を行っています。関心のある方ならどなたでもお気軽に参加いただけます。ぜひご入会下さい!

入会の方法

博物館仮事務所(豊津支所2F)窓口で会費を納めてください。

年間会費

個人会員 3,000円
家族会員 1名2,000円

お問い合わせ先

博物館友の会事務局
博物館仮事務所内
(豊津支所2F・博物館仮事務所内)
Tel 0930-33-4666

4・5月期歴史講座

【漢詩紀行講座】

・4月4日(土) 9時30分
・5月2日(土) 9時30分

【古文書講座】

・4月11日(土) 10時00分
・5月9日(土) 10時00分

【古典かな講座】

・4月18日(土) 9時30分
・5月16日(土) 9時30分

【金曜古文書講座】

・4月24日(金) 10時00分
・5月22日(金) 10時00分

【みやこ学講座】

・4月25日(土) 10時00分
・5月23日(土) 10時00分

※日程等変更する場合がございます。

歴史を学ぼう!文化にふれよう!

歴史講座受講生募集!

博物館では新年度からの歴史講座の受講生を募集します。

歴史講座には「漢詩紀行講座」「古典かな講座」「古文書講座」「金曜古文書講座」「みやこ学講座」の各コースがあります。受講希望の方はお気軽に博物館仮事務所までお問い合わせください。(継続して受講を希望される方の申込については不要です)。なお、各講座では毎回資料代として200円が必要ですのでご了承ください。

講座の内容

【漢詩紀行講座】

○講師 宮原加代子 先生
○内容 みやこ町内垣に生まれた漢学者・吉原古城(一八六五〜一九三二)をはじめ、主に郷土の先賢の漢詩を鑑賞します。
漢詩文の基礎学習をしながら進めてゆきますので、筆記用具等ご持参ください。初心者の方も大歓迎です。
○実施日 毎月第1土曜日
午前9時30分

【古典かな講座】

○講師 宮原加代子 先生
○内容 江戸後期の飘逸の詩人・良寛(りょうかん)の万葉仮名の手紙をテキストに、鑑賞・手習いをします。用紙・筆記用具をご持参ください。

○実施日 毎月第3土曜日
午前9時30分

【古文書講座】

○講師 当館学芸員
○内容 江戸時代の人々が「くずし字」で書いた手紙や日記などを解読します。特にみやこ町ゆかりの古文書を歴史的な背景についての解説を交えながら読み進めます。
○実施日 毎月第2土曜日
午前10時00分

【金曜古文書講座】

○講師 当館学芸員
○内容 博物館に収蔵される古文書を主なテキストとして、江戸時代後期以降の豊前地域をめぐる行政・生活・文化に関するさまざまな情報を読み解きます。
○実施日 毎月第4金曜日
午前10時00分

【みやこ学講座】

○講師 当館学芸員
○内容 郷土の歴史について講義はもちろん、実際に現地(遺跡や博物館など)へ赴き、歩いて見て触れる体験型学習を行います。今年は「植生・地質」「ふるさと遺産」をキーワードに関連学習を進めてゆきます。
○実施日 毎月第4土曜日
座学は午前10時00分

※現地学習等はその都度連絡します。

2・3月の業務日誌から

2月22日(日)、豊前国分寺跡公園でみやこ町三重塔まつりが行われ、博物館友の会も出店してまつりの賑わいに一役買いました。参加の皆さんお疲れ様でした!

3月7日(日)、豊津支所別館で歴史文化カレッジ最終講が開かれました。福岡県文化財保護課 久野隆志氏に「豊前神楽の調査とこれからの課題」のテーマで、神楽の総合調査成果をお話しいただきました。



▲久野先生による神楽の総合調査成果のお話し



▲三重塔まつりでの友の会出店

みやこの歴史発見伝 81

古文書が語る村の生活と文化 19

国分寺の仁王門

左の史料は、文政六年（一八二二）十一月に、仲津郡国分村（現みやこ町国分）の豊前国分寺が、仁王門（寺院を守護する金剛力士を安置する門）の再建を小倉藩に願ひ出た文書です。解読文は次のとおり。

【解読文】

奉願覚
一、当寺仁王門及大破候二付、年久敷解体仕置候所、来ル午年 祖師千年忌相当仕候二付、以前之礎等相残居候場所二、長五間・横式間之仁王門、此

【史料】

一、当寺仁王門及大破候二付、年久敷解体仕置候所、来ル午年 祖師千年忌相当仕候二付、以前之礎等相残居候場所二、長五間・横式間之仁王門、此

（国作手永大庄屋文政6年日記12月16日条）

度再建仕度奉願候、願之通被仰付被下置候ハ、難有奉存候、為其願書差上申候、以上
未十二月 国分寺

これによると、来たる午年（文政六年から十一年後）が、祖師（空海）の千年忌にあたるので、昔の礎石（建物の柱を支える土台石）が残っている場所に五間×二間（約9m×3.6m）の長大な仁王門を再建したいと言うので、江戸時代の豊前国分寺

あらためて言うまでもなく、

国分寺は、天平十三年（七四二）に聖武天皇が出した、いわゆる「国分寺建立の詔」によって、全国六十余りの国ごとに建てられた寺院です。豊前国の国分寺は、現みやこ町国分地区が建立地に選ばれ、建立の詔から十五年ほど後には、ほぼ完成していたものと考えられています。

その後時代が流れ、平安時代末期以降、戦国時代末まで、豊前国分寺は天台宗の影響下にあってと推測されています。また、寺伝によると、天正年間（一五七三〜一五九三）に、豊後の戦国大名・大友宗麟によって焼かれ、殆どの伽藍（建物）が焼失したといわれています。

江戸時代に入り、同寺は真言宗の寺院となりましたが、朝廷ゆかりの「一国一寺」の寺という由緒により、藩からも一定の庇護・援助を受け、少しずつ伽藍を再建していったのでした。

仁王門再建

上掲の文書に添えて、藩に提出された歎願書には、「大友氏に伽藍を焼かれた際、仁王門は焼失を免れた。しかし、それも追々と痛みが進み、ついには解体処分するに至った」と記されています。解体処分した具体的な時期について言及されていませんが、祖師千年忌供養の一環として、この失われた仁王門の再建を発願したのでした。

再建は実現したか

国分寺からの願ひ出を受け、翌文政七年（一八二四）二月に藩から次のような質問が来しました

① 仁王門を解体したのはいつ頃か。

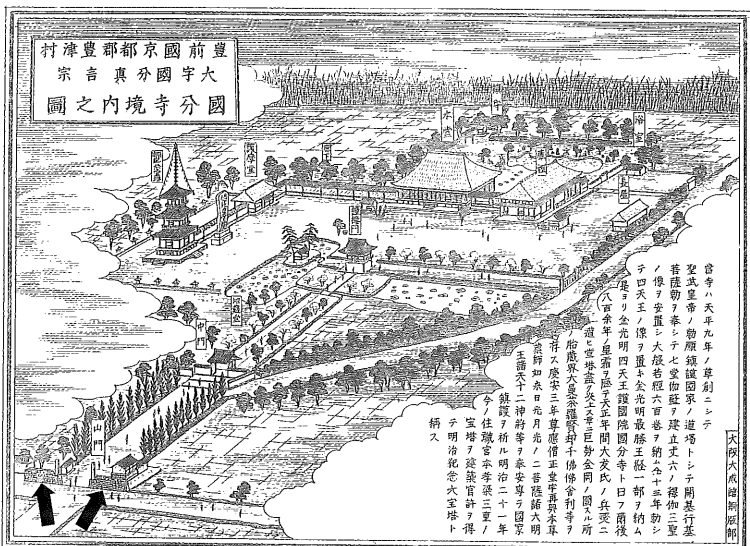
② 仁王門の礎石は全部残っているのか、又は所々残っているのか。

これに対する国分寺の回答は次のようなものでした（同前史料三月二日条）。

① 仁王門の解体時期は不明。

② 現在、礎石などは、仁王門跡に築かれた石垣になっていて、これは慶安三年（一六五〇）に築いたという記録が寺に残っている。

つまり、「礎石が残っている」というのは、正確には「石垣の積石の一部として礎石が残っている」ということで、元々の位置に並んでいた訳ではなかったようです。ただ、このことと、



▲明治30年頃の豊前国分寺境内（「福岡県名所図録図会」図中矢印は筆者）矢印で示した画面左下の山門両側に石垣が見える。

①の回答を併せて考えると、「かつて豊前国分寺に仁王門が存在した」ということの証明は、難しくなるように思います。

そのことも影響したのか、この仁王門「再建」の計画は立ち消えたようです。明治三十年（一八九七）頃に描かれた境内の絵図をみると（右図）、当時の山門両側に石垣が描かれています。慶安三年に仁王門跡に築かれたという石垣はこれかもしれないが、現存しないため、積石の一部に礎石が転用されていたか不明です。

（川本英紀）